

# 中学生の well-being とスポーツ実施の関連

—特にソーシャルキャピタルや保護者の意識との相互関連性を視点として—

千葉洋平\*  
中山直子\*\*

## 抄録

本研究の目的は、中学生の well-being とスポーツ実施の関係について、ソーシャルキャピタル（以下 SC と称す）や保護者の意識との関連から明らかにすることである。そこで中学生を中心とした子どもの well-being と SC に関する先行研究の知見をまとめ、次に中学生の well-being についてスポーツの実施や SC の視点から調査を行った。

研究 1 では、34 件の文献が抽出された。そしてこれらの文献を、「調査対象」「研究手法」「研究目的」の 3 項目により分析した。「調査対象」は「子ども」が 14 件（41.2%）と最も多く、次いで「保護者」が 4 件（11.8%）、「子どもと保護者」3 件（8.8%）の順になっていた。「研究手法」は、量的研究が 22 件（64.7%）、質的研究が 7 件（20.6%）、量的・質的研究を組み合わせたものが 4 件（11.8%）で、文献研究が 1 件（2.9%）であった。「研究目的」としては、「健康と SC の関係」を明らかにしようとしたものが 14 件（41.2%）、次いで「スポーツと SC の関係」を扱ったものが 13 件（38.2%）、そして「子どもに対する保護者の関わり」を明らかにしようとしたものが 7 件（20.6%）となっていた。

研究 2 では、研究 1 でまとめた資料を参考に、中学生の well-being とスポーツの実施と SC に関する調査項目を検討し、実際に地域の中学校で調査を実施した。対象者は都市郊外にある A 中学校の 1 年生及び 2 年生 246 名（男子：152 名、女子 110 名）とその保護者である。親子でマッチングできた 185 名を分析対象とした。子どものスポーツ実施については、保護者が子どもと一緒に運動や野外活動をすることと関連が見られた。SC については、親の SC と子どもの SC については直接的な関連は見られなかった。保護者の SC は、保護者自身の主観的健康感や生活満足感と関連していることが示された。

キーワード：中学生， well-being， スポーツ， ソーシャルキャピタル， 保護者

---

\* 国士舘大学大学院 〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1

\*\* 聖路加国際大学 〒104-0045 東京都中央区築地3-8-5

# Relationship between Well-being and Sports among the Junior High Student

—Particularly a social capital and interrelatedness with the consciousness of the parents as a viewpoint—

Yohei Chiba \*  
Naoko Nakayama\*\*

## Abstract

The purpose of this study was to clarify the relationship between well-being and sports of the junior high school students, and to discuss the effects of social capital (SC) and their parents' consciousness. The study was set the process of two stages. In the first of this paper, we considered about previous studies about well-being of junior high school students and SC published between 2009 and May 2014(Study 1). In the second section of this paper we surveyed well-being of junior high school students from the viewpoint of sports and SC(Study 2).

In Study 1, we extracted 34 issues. And these previous studies examine by 3 categories (research interest, research method, research object).

In study 2, a questionnaire survey was conducted with 246 junior high school students (1st and 2nd grade, 152 boys, 110 girls) and their parents in January 2015. Totally, 185 matching parent-child data were analyzed. The results indicated that the physical activity of the students was related to the sports with their parents. However, the direct effect of parent's SC on their children's was not shown. Parent's SC was associated with their self-rated health and life satisfaction in this study.

Key Words : Junior high student, Well-being, Sports, Social capital, Parents

---

\* Graduate School of Sport System Kokushikan University 7-3-1 Nagayama, Tama, Tokyo 206-8515, Japan

\*\* St. Luke International University 3-8-5 Tsukiji, Chuo-ku, Tokyo 104-0045, Japan

## 1. はじめに

UNICEFFのInnocenti Research Centre(2007)の報告や柴田ら(2008)の子どもにおけるQOLの調査の結果によると、子どものwell-beingには、本人、家族をはじめ、学校や友達といった子どもを取り巻く環境が不可欠な要素とされ、その重要性が示されている。また中山ら(2011)は、「児童生徒のWell-Being」とは、「子どもの健康への親の心がけ」という認識が、「親子のコミュニケーション」や「スポーツ」<sup>注1)</sup>といった実践活動を經由して規定されるものであることを報告している。そのため中学生のwell-beingを検討するにあたっては、スポーツと合わせて家族、地域社会といったいわゆるソーシャルキャピタル(以下SCと称す)の視点から明らかにする必要があると考えられる。

近年では、子どもたちの健康やwell-beingについて、学校や家庭、地域との関連から包括的に検討している報告が少なくない。藤沢ら(2007)は、地区単位のSCが主観的健康感に影響を及ぼすことを報告しており、そのためSCは健康との関連や影響があることを指摘している。また寺内ら(2014)は、壮年期就労者の抑うつ状態に影響を与える要因のひとつに、SCがあることを報告し、SCの醸成が壮年期就労者の抑うつ対策に有効であるとしている。それ以外には、学校への愛着によって、健康に関するリスク行動やうつ症状が減少すること(Rogers and Rose, 2002)や学校での帰属意識が高いことが主観的健康感の向上やうつ症状の低下に繋がり、健康リスク行動も減少していくこと(Morgan and Haglund, 2009)等が報告されている。

これらのようにSCと健康との関連性はこれまで相当数報告されているものの、中学生のwell-beingを含む健康に関連する要因を、スポーツやSCとの関係から検討している報告はあまりなされていないようである。そのため、中学生のwell-beingをスポーツやSCとの関係から明らかにし、その構造を提示することで、地域社会全体で取り組みを行うことの必要性やその支援のための理論を示すことができると考えられる。

## 2. 目的

本研究は、中学生のwell-beingとスポーツ実施の関係について、SCや保護者の意識との関連から明らかにすることを目的とする。研究1では、中学生を中心とした子どものwell-beingとスポーツ及びSCに関する先行研究の知見をまとめる。研究2では、研究1でまとめた資料を参考に、中学生のwell-beingとスポーツの実施とSCに関する調査項

目を検討し、実際に地域の中学校で調査を実施する。

## 3. 研究1 先行研究の検討

### 3.1 目的

中学生、スポーツ、SC、well-beingに関する文献をサーベイし、研究論文と形式的な分析から、研究の動向について概観する。

### 3.2 手順及び方法

文献検索では本研究に関する論文を網羅するため海外の文献検索には、PubMed、SPORTDiscusを、我が国の文献検索にはCiniiを用いて検索した。検索範囲は、2009年～2014年5月とした。なお「中学生」「スポーツ」「SC」「well-being」を検索語とし、この中から学会口頭発表やコラム、エッセイ、あるいは検索語のいずれかを主題としない、もしくは検索語とは関連しない文献や重複文献を除き34件の文献を抽出した(表1)。そしてこれらの文献を「調査対象」「研究手法」「研究目的」の3項目により分析した。

### 3.3 分類内容と結果

「調査対象」別に分類した結果、「子ども」が14件(41.2%)と最も多く、次いで「保護者」が4件(11.8%)、「子どもと保護者」3件(8.8%)、「大人」3件(8.8%)、「子どもとスポーツ活動の関係者」2件(5.9%)、「保護者とスポーツ活動の関係者」2件(5.9%)と続く。これ以外には「スポーツ活動の関係者」1件(2.9%)や「行政担当者」とスポーツ活動の関係者」1件(2.9%)、「子ども、保護者、スポーツ活動の関係者、教師、地域団体職員」1件(2.9%)であった。

「研究手法」を量的研究、質的研究、量的研究・質的研究を組み合わせた研究、文献研究に分類してみた結果、量的研究が22件(64.7%)、質的研究が7件(20.6%)、量的・質的研究を組み合わせたものが4件(11.8%)で、文献研究が1件(2.9%)であった。

「研究目的」としては、「健康とSCの関係」を明らかにしようとしたものが14件(41.2%)と最も多かった。次いで「スポーツとSCの関係」を扱ったものが13件(38.2%)、そして「子どもに対する保護者の関わり」を明らかにしようとしたものが7件(20.6%)となっていた。

SCに関する研究においては、これまで量的研究や文献研究が、その割合の多くを占めていたことが報告されてきた(空閑, 2010; 井上ら, 2013)<sup>注2)</sup>。だが今回抽出された論文では、それ以外の研究手法を用いた研究も一定数存在していた。また、子どものスポーツ活動を通じて保護者のSCが醸成されている(Sean, 2014)といったようにSCが家族や地域社会との構造的な関係の中で築かれているという報告もあり、我が国の中学生のwell-beingを検討する際にも、構造的な検討が重要であると考えられる。

表1 「中学生」「スポーツ」「ソーシャル・キャピタル」「well-being」に関連する内容の文献リスト

| タイトル  | 著者   | 出典  | 巻(号)/ページ  | 発表年<br>(文献研究23件) |
|---|--|---|---|------------------|
| Sleep, hunger, satiety, food cravings, and caloric intake in adolescents  | Landis, A. M., Parker, K. P., and Dunbar, S. B.  | Journal of Nursing Scholarship                                      | 41(2): 115-123  | 2009             |
| Social capital does matter for adolescent health: evidence from the English HBSC study  | Morgan, A. and Haglund, B. A.  | Health promotion international                                      | 24(4): 363-372  | 2009             |
| Mothers' community participation and child health   | Nobles, Jenna, and Frankenberg, Elizabeth.   | Journal of Health and Social Behavior                               | 50(1): 16-30  | 2009             |
| 中学生のスポーツ活動におけるセルフ・ハンディキャッピングの関連性  | 遠藤俊郎・袴田敦士・安田貢・布施洋・伊藤潤二・田井政規  | 山梨大学教育人間科学部紀要   | 11: 126-133   | 2009             |
| 中学生におけるソーシャルサポートと自他への肯定感に関する研究  | 細田尚一   | 教育心理学研究   | 57: 306-323   | 2009             |
| A life-cycle approach to the analysis of the relationship between social capital and health in Britain  | Borgenovi, F.  | Social Science & Medicine   | 71(11): 1927-1937                                     | 2010             |
| The impact of social and cultural variables on parental rating of child health in Australia   | Dunt, D., Hage, B., and Kelaher, M.  | Health promotion international                                      | 26(3): 296-301  | 2011             |
| 中学生における近隣の地域環境の質、個人レベルのsocial capitalと抑うつ症状との関連   | 朝倉啓司   | 日本公報誌   | 58(9): 754-767  | 2011             |
| 首都圏における児童生徒のwell-beingと保護者の認識との関連と構造  | 中山直子・田村道子・高橋俊彦・星二  | 日本公報誌   | 58(9): 635-605  | 2011             |
| American indian parents' assessment of and concern about their kindergarten child's weight status, South Dakota, 2005-2006                          | Arcan, C., Hannan, P. J., Himes, J. H., Holy, R., Bonnie, Smyth, M., Story, M., and Fulkerson, J. A.                               | Preventing Chronic Disease  | 9: 110215. doi: http://dx.doi.org/10.5888/pcd9.110215 | 2012             |
| Social capital and social inequality in adolescents' health in 601 Flemish communities: a multilevel analysis                                       | De Clercq, B., Vyncke, V., Hublet, A., Elgar, F. J., Ravens-Sieberer, U., Currie, C., Hooghe, M., Leven, A., and Maes, L.          | Social Science & Medicine   | 74(2): 202-210  | 2012             |
| 子どもの発達に焦点をあてた地域の役割：子どもの認識するソーシャルキャピタルの測定から  | 岡正寛子・田口豊郎  | 川崎医療福祉学会誌   | 21(2): 184-194  | 2012             |
| Correlates of overweight and obesity among American Indian/Alaska Native and NonHispanic White  | Ness, M., Barradas, D. T., Irving, Jennifer., and Manning, S. E.   | Maternal and child health journal                                   | 16(2): 248-22   | 2012             |
| Neighbourhood social capital, parenting strain, and personal mastery among female primary caregivers of Children                                    | Carpiano, R. M. and Kimbro, R. T.  | Journal of Health and Social Behavior                               | 53(2): 232-247  | 2012             |
| Health outcomes among Swedish children: the role of social capital in the family, school and neighbourhood  | Eriksson, U., Hochwälder, J., Carslund, A., and Sellström, E.  | Acta Paediatrica  | 101(3): 513-517                                       | 2012             |
| Are neighbourhood social capital and availability of sports facilities related to sports participation among Dutch adolescents?                     | Prins, R. G., Mohnen, S. M., van Lenthe, F. J., Brug, J., and Oenema, A.   | International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity | 9(90): doi: 10.1186/1479-5868-9-90                    | 2012             |
| 中学生における運動・スポーツ活動が日常生活の充実度に与える影響に関する研究   | 林園子  | 東京薬政大学研究紀要  | 52(0): 47-54  | 2012             |
| You have to be there to enjoy it? Neighbourhood social capital and health   | Mohren, S. M., Völker, B., Flap, H., Subramanian, SV., and Groenewegen, P. P.  | European journal of public health                                   | 23(1): 33-39  | 2013             |
| Correlates of mothers' perception of their communities' social capital: a community-based study   | Pascoe, J. M., Specht, S., McNicholas, C., Kasten, E., Spear, W., and Looman, W.   | Maternal and child health journal                                   | 17(8): 1382-1390                                      | 2013             |
| 初期青年期の全体的自己価値および具体的側面の自己評価の発達的変化  | 山本ちか   | 名古屋文理大学紀要   | 13: 1-10  | 2013             |
| 都市部中学生における認知知的ソーシャルキャピタルの実態とその関連要因：個人要因・環境要因に着目した検討   | 山辺智子・田所悦子・藪有桂  | 日本地域看護学会誌   | 16 (2) : 7-14   | 2013             |
| Does neighborhood social capital buffer the effects of maternal depression on adolescent behavior problems?   | Delany-Brumsey, A., Mays, V. M., and Cochran, S. D.  | American Journal of Community Psychology                            | 53: 275-285   | 2014             |
| Neighbourhood social capital as a moderator between individual cognitions and sports behaviour among Dutch adolescents                              | Prins, R. G., Beenackers, M. A., Boog, M. C., Van Lenthe, F. J., Brug, J., and Oenema, A.  | Social Science & Medicine   | 105: 9-15   | 2014             |
| 行為者間の信頼に基づく地域スポーツ振興事業の組織化と創発：ソーシャル・キャピタルの機能と生成に着目して   | 長瀬仁・榎本浩・曾根幹子   | 体育・スポーツ経営学研究  | 23: 11-31   | (文献研究7件)         |
| Lifestyle sport, public policy and youth engagement: examining the emergence of parkour   | Paul, G. and Belinda, W.   | International Journal of Sport Policy and Politics                  | 3(1): 109-131   | 2011             |
| Walk with your head high: African and African Caribbean fatherhood, children's mental well-being and social capital                                 | Williams, R., Hewison, A., Wagstaff, C., and Randall, D.   | Ethnicity & health  | 17(1-2): 89-103                                       | 2012             |
| Connecting the community through sport club partnerships  | Katie, E. M. and Alison, D.  | International Journal of Sport Policy and Politics                  | 4(2): 243-255   | 2012             |
| How do youth sports facilitate the creation of parental social ties?  | Sean, F. B.  | Sport in Society  | 17(1): 23-37  | 2014             |
| What does commitment mean to volunteers in youth sport organizations?   | Terry, E., James, S., and Dwight, Z.   | Sport in Society  | 17(1): 52-67  | 2014             |
| Action sports for youth development: critical insights for the SDP community  | Holly, T.  | International Journal of Sport Policy and Politics                  | doi: 10.1080/19406940.2014.925952                     | 2014             |
| Youth sport volunteering: developing social capital? Sport, Education and Society   | Tess, K. and Steven, B.  | Education and Society   | 14(1): 121-140  | (文献研究3件)         |
| The development of social capital through football and running: studying an intervention program for inactive women                                 | Ottesen, L., Jeppesen, R. S., and Krstrup, B. R.   | Scandinavian Journal of Medicine & Science in Sports                | 20: 118-131   | 2010             |
| Building social and cultural capital among young people in disadvantaged communities: lessons from a Brazilian sport-based intervention program     | Ramón, S.  | Sport, Education and Society  | 17(1): 52-67  | 2014             |
| Does neighbourhood social capital aid in leveling the social gradient in the health and well-being of children and adolescents? A literature review | Veerle, V., Bart, D. C., Veerle, S., Caroline, C., Giorgio, B., Stefan, H. J., Sara, D. C., Vladimir, K., Candace, C., and Lea, M. | BMC Public Health   | 13: doi:10.1186/1471-2458-13-66                       | 2013             |

## 4. 研究2 中学生のwell-beingに関する調査

### 4.1 目的

中学生が健康で安定した生活を実現できている状態を Well-being とし、また畠中・木村 (2011) の定義を使用しながら、学校生活や健康的な生活習慣やスポーツ実施と親子のコミュニケーション、地域への愛着や関わり等といった、子どもたちが充実して楽しく生活することと関連する要因を明らかにすることを目的として、自記式の質問紙調査を実施した。

### 4.2 方法

#### 1) 調査対象

都市郊外 A 市のコミュニティスクール (学校運営協議会制度) において、機縁法にて協力を得られた A 校の 1~2 年生 (男子; 152 名, 女子; 110 名) とその保護者とした。

#### 2) 調査方法

保護者の調査票は、生徒が自宅へ持ち帰り記載後、封筒に入れて学校へ提出し、生徒はクラスごとで調査を実施した。生徒との調査が終了後、それぞれの保護者の封筒へ生徒の調査票を封入し、親子がマッチングできるようにした。

#### 3) 調査内容

生徒用は、基本属性 (学年, 性別, クラブ活動の有無), 主観的健康感, 生活習慣 (スポーツの実施状況, 睡眠状態, 朝の目覚めの気分, 朝食摂取, 食事の状況), 生活習慣の知識, 学校や家庭の楽しさ, 夢中になっていること, 保護者とのコミュニケーション (4 項目), 思春期用主観的幸福感 (10 項目), 自己効力感 (15 項目), 学校と近隣に関する地域の愛着 (12 項目) とした。保護者用は、基本属性 (子どもの性別, 子どもとの関係), 子どもの生活習慣で気を付けていること, 子どもの食生活で気を付けていること子どもとの会話, 生活習慣に関する心がけ, SC (6 項目) とした。

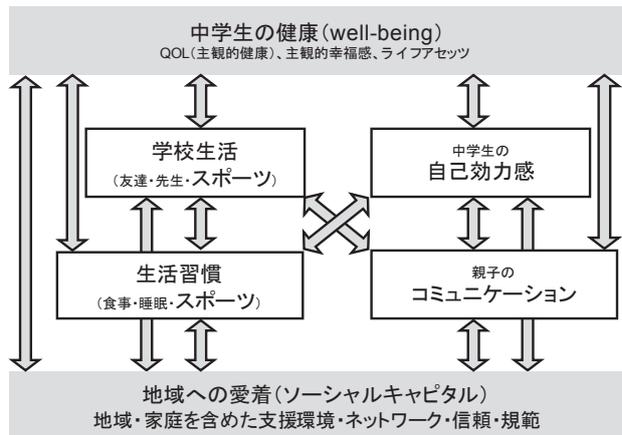
#### 4) 分析方法

生徒と保護者それぞれを集計し、生徒のスポーツの実施と SC や well-being との関係について、 $\chi^2$  乗検定, t 検定, 相関分析を用いて分析した。分析には SPSS19 を用いた。学年別の分析において、ほとんど差が見られなかったため、性別での  $\chi^2$  乗検定を行った。分析の仮説は、図 1 の通りとした。

#### 5) 倫理的な配慮

本調査は、無記名自記式の調査であり、本調査への回答は自由意志によるものである。本研究は、国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科及び体育学部の研究倫理審査委員会の承認を受け実施した (2014 年 9 月承認)。

図 1 子どもの Well-being に関する仮説的モデル図



### 4.3 結果と考察

#### 1) 調査票の回収数と分析対象者

調査票の回収数は、生徒は 246 名 (1 年生; 134 名, 2 年生; 112 名), 保護者は 212 名 (1 年生; 123 名, 2 年生; 89 名) であった。回収率は、生徒 93.8%, 保護者 80.4% であった。そのうち、親子のデータをマッチングできた 185 ペアを分析対象者とした。基本属性については、表 2 の通りである。クラブ活動については、7 割以上が体育系のクラブに所属していると回答した。また保護者の調査への回答は、約 9 割が母親の回答であった。

表 2 対象者と基本属性

|        |         | 人   | %    |
|--------|---------|-----|------|
| 性別     | 男       | 114 | 61.6 |
|        | 女       | 71  | 38.4 |
| 学年     | 1年生     | 96  | 51.9 |
|        | 2年生     | 89  | 48.1 |
| クラブ活動  | 体育系クラブ  | 135 | 73   |
|        | 文科系クラブ  | 30  | 16.2 |
|        | 参加していない | 12  | 6.5  |
| 保護者の回答 | 無回答     | 8   | 4.3  |
|        | 父       | 8   | 4.3  |
|        | 母       | 166 | 89.7 |
|        | 祖母      | 1   | 0.5  |
|        | その他     | 4   | 2.2  |
|        | 無回答     | 6   | 3.2  |

#### 2) 主な調査項目の基礎集計

子どもたちの主観的健康感とスポーツ実施に関する項目については、表 3 に示した。主観的健康感については男女の回答に有意差は見られなかった。外遊びや体育以外のスポーツ実施の有無、スポーツ

の楽しさや体力への自信については、統計学上の有意差が認められた。女子よりも男子に外遊びや体育以外のスポーツをしていると回答した割合が多く、「運動が楽しい」や「体力に自信がある」と回答した者が多い傾向にあった。

表3 主観的健康感とスポーツ実施に関する項目

| 項目        | 選択肢        | 男  | %     | 女  | %     | 全体 | %     | p値      |
|-----------|------------|----|-------|----|-------|----|-------|---------|
| 主観的健康     | よい         | 37 | 34.3% | 27 | 42.2% | 64 | 37.6% | ns      |
|           | ふつう        | 61 | 57.5% | 36 | 56.3% | 97 | 57.1% |         |
|           | 悪い         | 8  | 7.5%  | 1  | 1.6%  | 9  | 5.3%  |         |
| 外遊び       | いつもしている    | 11 | 10.2% | 3  | 4.3%  | 14 | 7.9%  | p<0.000 |
|           | しているときが多い  | 47 | 43.5% | 13 | 18.8% | 60 | 33.9% |         |
|           | していないときが多い | 47 | 43.5% | 39 | 56.5% | 86 | 48.6% |         |
| 体育以外の運動   | 毎日している     | 31 | 28.4% | 9  | 13.0% | 40 | 22.5% | p<0.003 |
|           | している日が多い   | 57 | 52.3% | 35 | 50.7% | 92 | 51.7% |         |
|           | していない日が多い  | 14 | 12.8% | 9  | 13.0% | 23 | 12.9% |         |
| 運動楽しい     | とても楽しい     | 57 | 52.3% | 24 | 34.8% | 81 | 45.5% | p<0.031 |
|           | 楽しい        | 45 | 41.3% | 32 | 46.4% | 77 | 43.3% |         |
|           | あまり楽しくない   | 6  | 5.5%  | 11 | 15.9% | 17 | 9.6%  |         |
| 体力に自信があるか | かなり自信がある   | 6  | 5.6%  | 0  | 0.0%  | 6  | 3.4%  | p<0.010 |
|           | ある程度自信がある  | 54 | 50.0% | 22 | 32.4% | 76 | 43.2% |         |
|           | あまり自信がない   | 37 | 34.3% | 33 | 48.5% | 70 | 39.8% |         |
|           | 自信がない      | 11 | 10.2% | 13 | 19.1% | 24 | 13.6% |         |

\*欠損値は除外した。

次に、子どもたちの生活習慣と学校や家庭の楽しさ等についての項目の結果については、表4に示した。平日の就寝時刻のみ、男女で統計学上の有意差が認められた (p=0.002) が、それ以外の項目については、男女において有意差は認められなかった。平日の就寝時刻については、男子は午後10時代に就寝する割合が多く、女子は0時代に就寝する割合が多い傾向であった。女子のほうが夜更かしの傾向が見られた。

表4 生活習慣と学校・家庭の楽しさ等

| 項目               | 選択肢         | 男  | %     | 女  | %     | 全体  | %     | p値      |
|------------------|-------------|----|-------|----|-------|-----|-------|---------|
| 平日就寝時刻           | 9時より前       | 1  | 0.9%  | 2  | 2.9%  | 3   | 1.7%  | p<0.002 |
|                  | 9時台         | 7  | 6.4%  | 5  | 7.2%  | 12  | 6.7%  |         |
|                  | 10時台        | 48 | 44.0% | 17 | 24.6% | 65  | 36.5% |         |
|                  | 11時台        | 39 | 35.8% | 23 | 33.3% | 62  | 34.8% |         |
|                  | 0時台         | 9  | 8.3%  | 21 | 30.4% | 30  | 16.9% |         |
| 平日就寝時間           | 1時以降        | 5  | 4.6%  | 1  | 1.4%  | 6   | 3.4%  | ns      |
|                  | 6時間未満       | 4  | 3.7%  | 4  | 5.8%  | 8   | 4.5%  |         |
|                  | 6時間以上7時間未満  | 21 | 19.3% | 20 | 29.0% | 41  | 23.0% |         |
|                  | 7時間以上8時間未満  | 40 | 36.7% | 22 | 31.9% | 62  | 34.8% |         |
|                  | 8時間以上9時間未満  | 34 | 31.2% | 15 | 21.7% | 49  | 27.5% |         |
| 朝の目覚めの気分はよい方だ    | 9時間以上10時間未満 | 10 | 9.2%  | 6  | 8.7%  | 16  | 9.0%  | ns      |
|                  | 10時間以上      | 0  | 0.0%  | 2  | 2.9%  | 2   | 1.1%  |         |
|                  | とてもあてはまる    | 11 | 10.2% | 5  | 7.1%  | 16  | 9.0%  |         |
|                  | ややあてはまる     | 48 | 44.4% | 30 | 42.9% | 78  | 43.8% |         |
|                  | ややあてはまらない   | 33 | 30.6% | 30 | 42.9% | 63  | 35.4% |         |
| 朝食摂取             | まったくあてはまらない | 16 | 14.8% | 5  | 7.1%  | 21  | 11.8% | ns      |
|                  | 毎日食べる       | 97 | 89.8% | 57 | 81.4% | 154 | 85.5% |         |
|                  | 食べるほうが多い    | 7  | 6.5%  | 10 | 14.3% | 17  | 9.6%  |         |
|                  | 食べない方が多い    | 4  | 3.7%  | 2  | 2.9%  | 6   | 3.4%  |         |
|                  | まったく食べない    | 0  | 0.0%  | 1  | 1.4%  | 1   | 0.6%  |         |
| 食事は楽しい           | とても楽しい      | 32 | 29.4% | 24 | 34.3% | 56  | 31.3% | ns      |
|                  | 楽しい         | 64 | 58.7% | 37 | 52.9% | 101 | 56.4% |         |
|                  | あまり楽しくない    | 11 | 10.1% | 9  | 12.9% | 20  | 11.2% |         |
|                  | まったく楽しくない   | 2  | 1.8%  | 0  | 0.0%  | 2   | 1.1%  |         |
| 心身の健康三要素の知識      | よく知っている     | 33 | 30.3% | 25 | 35.7% | 58  | 32.4% | ns      |
|                  | 知っている       | 63 | 57.8% | 38 | 54.3% | 101 | 56.4% |         |
|                  | あまり知らない     | 9  | 8.3%  | 7  | 10.0% | 16  | 8.9%  |         |
|                  | 全く知らない      | 4  | 3.7%  | 0  | 0.0%  | 4   | 2.2%  |         |
| 健康的な生活習慣が身に付いている | そう思う        | 12 | 11.1% | 7  | 10.0% | 19  | 10.7% | ns      |
|                  | ややそう思う      | 64 | 59.3% | 37 | 52.9% | 101 | 56.7% |         |
|                  | あまりそう思わない   | 25 | 23.1% | 23 | 32.9% | 48  | 27.0% |         |
|                  | そう思わない      | 7  | 6.5%  | 3  | 4.3%  | 10  | 5.6%  |         |
| 学校は楽しい           | とても楽しい      | 32 | 29.6% | 25 | 36.2% | 57  | 32.2% | ns      |
|                  | 楽しい         | 62 | 57.4% | 39 | 56.5% | 101 | 57.1% |         |
|                  | あまり楽しくない    | 12 | 11.1% | 4  | 5.8%  | 16  | 9.0%  |         |
|                  | まったく楽しくない   | 2  | 1.9%  | 1  | 1.4%  | 3   | 1.7%  |         |
| 家庭は楽しい           | とても楽しい      | 34 | 31.2% | 28 | 40.0% | 62  | 34.6% | ns      |
|                  | 楽しい         | 65 | 59.6% | 35 | 50.0% | 100 | 55.9% |         |
|                  | あまり楽しくない    | 9  | 8.3%  | 6  | 8.6%  | 15  | 8.4%  |         |
|                  | まったく楽しくない   | 1  | 0.9%  | 1  | 1.4%  | 2   | 1.1%  |         |

\*欠損値は除外した。

保護者との会話に関する結果は、表5に示した。「保護者はあなたのことを理解していると思うか」の項目以外は、男女で統計学上の有意差が認められた。「保護者と顔を合わせて話すか」については、

男子よりも女子が良く話していると回答し、「保護者と学校のことについて話す」や「保護者と将来のことを話す」という回答も、同様の傾向が見られた。

表5 保護者との会話の状況について

| 項目              | 選択肢         | 男  | %     | 女  | %     | 全体  | %     | p値      |
|-----------------|-------------|----|-------|----|-------|-----|-------|---------|
| 保護者と顔を合わせて話す    | よく話している     | 58 | 53.2% | 52 | 74.3% | 110 | 61.5% | p<0.027 |
|                 | 時々話している     | 36 | 33.0% | 15 | 21.4% | 51  | 28.5% |         |
|                 | あまり話していない   | 13 | 11.9% | 3  | 4.3%  | 16  | 8.9%  |         |
| 保護者と学校のことについて話す | よく話している     | 25 | 22.9% | 31 | 44.3% | 56  | 31.3% | p<0.001 |
|                 | 時々話している     | 48 | 44.0% | 32 | 45.7% | 80  | 44.7% |         |
|                 | あまり話していない   | 28 | 25.7% | 6  | 8.6%  | 34  | 19.0% |         |
| 保護者と将来のことについて話す | よく話している     | 10 | 9.2%  | 17 | 24.3% | 27  | 15.1% | p<0.047 |
|                 | 時々話している     | 46 | 42.2% | 24 | 34.3% | 70  | 39.1% |         |
|                 | あまり話していない   | 43 | 39.4% | 25 | 35.7% | 68  | 38.0% |         |
| 保護者は理解しているか     | とても理解している   | 25 | 24.0% | 22 | 32.8% | 47  | 27.5% | ns      |
|                 | 理解している      | 66 | 63.5% | 36 | 53.7% | 102 | 59.6% |         |
|                 | あまり理解していない  | 8  | 7.7%  | 9  | 13.4% | 17  | 9.9%  |         |
|                 | ほとんど理解していない | 5  | 4.8%  | 0  | 0.0%  | 5   | 2.9%  |         |

\*欠損値は除外した。

### 3) 保護者データの基礎集計

回答した保護者の回答の基礎集計について、表5に示した。子どもの健康状態については、よい・ふつうといった回答が9割以上であった。また、保護者本人の主観的健康感については、「非常に健康である」「まあ健康である」といった、肯定的な回答が約9割であった。生活満足感についても「とても満足」「まあまあ満足」といった肯定的な回答が7割以上であった。子どもと一緒にスポーツや野外活動をしているかについては、「あまりしていない」「全くしていない」という回答が8割以上であった。次に、子どもとのコミュニケーションについては、「子どもに自分の仕事の話をする」「子どもと顔をあわせて話す」「子どもと学校のことについて話す」のいずれの項目においても、8割以上の保護者が、「よく話している」「時々話している」といった回答であった。

次に、SCについては、「地区安全」「近所の助け」「気軽に世話してくれる」「医療安全」「気軽に挨拶する」「将来も済み続けたい」の6項目について回答してもらった。「気軽に世話してくれる」については、肯定的な回答が49.2%と5割をきっていたが、そのほかの項目では、54.6~71.3%と肯定的な回答が見られた。

保護者からみた子どもの様子で気になることについては、複数回答で回答してもらった。「就寝時間が遅い」や「朝の寝起きが悪い」といった生活習慣にかかわることのほか、「気分がむらがある」「すぐ疲れたという」「何かイライラしている」といった不定愁訴的なものから、「肩や腰や手足を痛がる」「よく腹痛を訴える」「頭痛を訴える」といった身体的なことが上がっていた。

保護者の子どもへの健康づくりの心がけについては、「食生活に気をつける」「規則正しい生活」「睡眠や休養をとらせる」「運動やスポーツをさせる」といった順に回答が見られた。また、食生活への心

がけでは、「主食，主菜，副菜をそろえる」「野菜を多くとらせる」「食事を規則正しくさせる」「家族揃って食事をする」といった順に回答が見られた。

表6 保護者データの基礎集計

| 項目              | 選択肢            | 人   | %    |
|-----------------|----------------|-----|------|
| 子どもの健康状態について    | よい             | 114 | 61.6 |
|                 | ふつう            | 66  | 35.7 |
|                 | 悪い             | 1   | 0.5  |
|                 | わからない          | 1   | 0.5  |
| 主観的健康感          | 非常に健康である       | 43  | 23.2 |
|                 | まあ健康である        | 121 | 65.4 |
|                 | あまり健康ではない      | 17  | 9.2  |
|                 | 健康でない          | 2   | 1.1  |
| 生活満足感           | 無回答            | 2   | 1.1  |
|                 | とても満足している      | 41  | 22.2 |
|                 | まあまあ満足している     | 99  | 53.5 |
|                 | どちらともいえない      | 27  | 14.6 |
|                 | あまり満足していない     | 12  | 6.5  |
| 子どもと運動・野外活動     | 満足していない        | 4   | 2.2  |
|                 | 無回答            | 2   | 1.1  |
|                 | よくしている         | 8   | 4.3  |
|                 | 時々している         | 25  | 13.5 |
|                 | あまりしていない       | 69  | 37.3 |
| 子どもと自分の人生仕事の話   | 全くしていない        | 82  | 44.3 |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
|                 | よく話している        | 45  | 24.3 |
|                 | 時々話している        | 109 | 58.9 |
|                 | あまり話していない      | 24  | 13.0 |
| 子どもと顔を合わせて話す    | 全く話していない       | 4   | 2.2  |
|                 | 無回答            | 3   | 1.6  |
|                 | よく話している        | 138 | 74.6 |
|                 | 時々話している        | 39  | 21.1 |
| 子どもと学校のことについて話す | あまり話していない      | 7   | 3.8  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
|                 | よく話している        | 79  | 42.7 |
|                 | 時々話している        | 85  | 45.9 |
| 地区安全            | あまり話していない      | 19  | 10.3 |
|                 | 全く話していない       | 1   | 0.5  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
|                 | そう思う           | 30  | 16.2 |
|                 | どちらかと言えばそう思う   | 85  | 45.9 |
| 近所の助け           | どちらともいえない      | 48  | 25.9 |
|                 | どちらかと言えばそう思わない | 13  | 7.0  |
|                 | そう思わない         | 4   | 2.2  |
|                 | わからない          | 4   | 2.2  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
| 気軽に世話してくれる      | そう思う           | 50  | 27.0 |
|                 | どちらかと言えばそう思う   | 74  | 40.0 |
|                 | どちらともいえない      | 36  | 19.5 |
|                 | どちらかと言えばそう思わない | 6   | 3.2  |
|                 | そう思わない         | 2   | 1.1  |
| 医療安全            | わからない          | 16  | 8.6  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
|                 | そう思う           | 26  | 14.1 |
|                 | どちらかと言えばそう思う   | 39  | 21.1 |
|                 | どちらともいえない      | 52  | 28.1 |
| 気軽に挨拶する         | どちらかと言えばそう思わない | 19  | 10.3 |
|                 | そう思わない         | 35  | 18.9 |
|                 | わからない          | 11  | 5.9  |
|                 | 無回答            | 3   | 1.6  |
|                 | そう思う           | 38  | 20.5 |
| 将来も住み続けたい       | どちらかと言えばそう思う   | 73  | 39.5 |
|                 | どちらともいえない      | 45  | 24.3 |
|                 | どちらかと言えばそう思わない | 10  | 5.4  |
|                 | そう思わない         | 11  | 5.9  |
|                 | わからない          | 6   | 3.2  |
| 子どもと運動・野外活動     | 無回答            | 2   | 1.1  |
|                 | そう思う           | 53  | 28.6 |
|                 | どちらかと言えばそう思う   | 79  | 42.7 |
|                 | どちらともいえない      | 38  | 20.5 |
|                 | どちらかと言えばそう思わない | 8   | 4.3  |
| 子どもと学校のことについて話す | そう思わない         | 3   | 1.6  |
|                 | わからない          | 3   | 1.6  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |
|                 | そう思う           | 41  | 22.2 |
|                 | どちらかと言えばそう思う   | 60  | 32.4 |
| 子どもと顔を合わせて話す    | どちらともいえない      | 50  | 27.0 |
|                 | どちらかと言えばそう思わない | 6   | 3.2  |
|                 | そう思わない         | 18  | 9.7  |
|                 | わからない          | 9   | 4.9  |
|                 | 無回答            | 1   | 0.5  |

「外遊びしているか」、「体育以外運動をしている」、「運動楽しい」、「学校楽しい」、「家庭楽しい」、「顔合わせて話す」、「学校のことについて話す」、「将来について話す」、「保護者は理解している」といった項目について相関分析を行った。表6に結果を示す。

「保護者のSC」は、「子どもの気になる症状」とは有意の負の相関を示した ( $r = -0.169$ )。また、「子どもと運動・野外運動をする」、「保護者の主観的健康感」、「生活満足感」、「子どもの主観的健康感」と有意な弱い正の相関が見られた ( $r = 0.164 \sim 0.233$ )。

「子どもと運動・野外活動をする」ことと関連した項目は、「保護者が子どもと人生・仕事の話をする」、「顔を合わせて話をする」こと、「学校のことについて話をする」ことと有意な弱い正の相関が見られた ( $r = 0.181 \sim 0.212$ )。子どもの項目では、「外遊びをしている」、「体育以外の運動をしている」、「運動をたのしい」と思っていることのほか、「保護者と学校のことについて話す」、「将来のことについて話す」に、有意な弱い正の相関が見られた ( $r = 0.149 \sim 0.223$ )。

「子どもの主観的幸福感」と関連のある項目は、「保護者の子どもの気になる症状」と有意な負の相関が見られた ( $r = -0.340$ )。子どもの主観的幸福感が高いと、保護者が子どもの気になる症状は減少しているという結果であった。また、「保護者の主観的健康感」とも有意な正の相関が認められた ( $r = 0.157$ )。子どもたち自身の項目としては、「SCスコア」、「自己効力感」、「主観的健康感」、「体育以外の運動をしている」、「学校楽しい」、「家庭楽しい」、「顔合わせて話す」、「学校のことについて話す」、「将来について話す」、「保護者は理解している」といった項目であり、有意な正の相関が認められた ( $r = 0.201 \sim 0.408$ )。

#### 4) 保護者の意識と中学生の意識の関連

それぞれ保護者の「SCスコア」、「子どもの気になる症状」、「健康づくり心がけ」、「食生活心がけ」、「子どもと運動・野外活動」、「子どもと仕事人生の話をする」、「顔を合わせて話をする」、「学校のことについて話をする」、「保護者の主観的健康感」、「生活満足感」と、子どもの「主観的幸福感スコア」、「自己効力感スコア」、「SCスコア」、「子どもの主観的健康感」

表7 保護者の意識と中学生の意識の関連

|                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |  |
|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 1 SCスコア         | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 子気になる         |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 健康づくり心がけ      |   |   | 1 |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 4 食生活心がけ        |   |   |   | 1 |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 5 子どもと運動・野外活動   |   |   |   |   | 1 |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 6 仕事人生の話をする     |   |   |   |   |   | 1 |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 7 顔合わせて話をする     |   |   |   |   |   |   | 1 |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 8 学校のことについて話をする |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 9 主観的健康         |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 10 生活満足感        |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 11 主観的幸福感スコア    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 12 自己効力感スコア     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 13 SCスコア        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 14 主観的健康        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 15 外遊しているか      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 16 体育以外運動をしている  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 17 運動楽しい        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |  |
| 18 学校楽しい        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |  |
| 19 家庭楽しい        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |  |
| 20 顔合わせて話す      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |  |
| 21 学校のことについて話す  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |  |
| 22 将来について話す     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |  |
| 23 保護者は理解している   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |  |

\* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。  
 \*\* 相関係数は1%水準で有意(両側)です。  
 Pearsonの相関係数

5. まとめ

都市郊外 A 中学校の生徒とその保護者の調査結果から、以下のことが明らかになった。

- 1) 子どものスポーツ実施については、保護者が子どもと一緒にスポーツをすることとの関連が見られ、親と一緒にスポーツをすることにより、子どもの外遊びや体育以外の活動へとつながり、スポーツの楽しさに関連していた。
- 2) SCについては、親のSCと子どものSCについては直接的な関連は見られなかった。保護者のSCは、保護者自身の主観的健康感や生活満足感と関連していることが示された。
- 3) 子どものSCは、保護者が子どもと顔を合わせて話をすることと関連していたが、子ども自身の項目では、「運動が楽しい」、「学校が楽しい」、「家庭が楽しい」といったwell-beingに関連する項目と、「保護者との会話」が関連していることが明らかになった。

本調査は、都市郊外 A 中学校1校の調査結果であり、今後は、中学生だけではなく、小学生、高校生、大学生といった青少年とその保護者等にも調査して、外的妥当性を高めることや、欠損値を少なくさせることによって、バイアスを少なくさせ、内的妥当性を高めることが研究課題である。また、スポーツの実施やSC・Well-beingとの関連や親子の認識の構造について仮説図に基づき共分散構造分析を用いて、総合的構造的に関連を明らかにすることも課題である。

注

- 注1) 本研究では「スポーツ」を運動を含む広い意味で用いている。ただし、調査対象者へ分かりやすくするため、調査票の中では「体育」や「運動」「野外活動」を用いて調査を行っている。
- 注2) 空閑(2010)は我が国のSCの研究を分析する中で、文献研究と事例研究が最も多くその割合がいずれも150文献中51件であったことを報告している。井上ら(2013)は我が国におけるSCと健康に関わる文献の中で、量的研究の割合が90.7%であったとしている。

参考文献

藤澤由和・濱野強・小藪明生(2007) 地区単位のソーシャル・キャピタルが主観的健康感に及ぼす影響. 厚生学の指標, 54(2): 18-23.  
 畠中宗一・木村直子(2006) 子どものウェル・ビーイングと家族. 世界思想社: 東京, p. 39.  
 井上智代・片平伸子・平澤則子・藤川あや・飯吉令枝・高林知佳子(2013) 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する文献研究. 新潟県立看護大学紀要, 2: 10-15.  
 空閑睦子(2010) ソーシャル・キャピタルに関する先行研究の整理: 今日までにおける定義の概要と文献サーベイから見た日本の研究の動向. CUC policy studies review, 27: 39-49.  
 Morgan, A. and Haglund, B. A. (2009) Social capital does matter for adolescent health: evidence from the English HBSC study. Health promotion international, 24(4): 363-372.  
 中山直子・田村道子・高橋俊彦・星旦二(2011) 首

- 都圏における児童生徒の Well-Being と保護者の認識との関連と構造. 日本公衛誌, 58 (8): 595-605.
- Rodgers, K. B. and Rose, H. A. (2002) Risk and Resiliency Factors Among Adolescents Who Experience Marital Transitions. *Journal of Marriage & Family*. 64: 1024-1037.
- Sean, F. B. (2014) How do youth sports facilitate the creation of parental social ties?. *Sport in Society*, 17(1): 23-37.
- 柴田玲子・松寄くみ子・根本芳子 (2008) 子どもの QOL 研究の現状. *教育と医学* 8; 56(11): 1108-1115.
- 寺内千絵・田口理恵 [袴田]・田高悦子・今松友紀・有本梓・臺有桂・塩田藍 (2014) 壮年期就労者の抑うつ状態に影響を与える職場・家庭・地域要因の検討. *厚生指標*, 61(8): 1-7.
- UNICEF Innocenti Research Centre (2007) *Child Poverty in Perspective: an Overview of Child Well-Being in Rich Countries. A Comprehensive Assessment of the Lives and Well-Being of Children and Adolescents in the Economically Advanced Nations.* Florence: UNICEF, 2007.  
[http://www.unicef-irc.org/publications/pdf/rc7\\_eng.pdf](http://www.unicef-irc.org/publications/pdf/rc7_eng.pdf) (参照日 2015 年 1 月 30 日)

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。

